3 避難所
屋内テント設営訓練

目黒区内には、37か所の地域避難所があります。多数の避難者が生活する避難所では、プライベート空間の確保が重要な課題となっています。そこで目黒区では、避難所でパーテーションの役割を果たす屋内テントを導入し、各避難所の体育館などに設置できる数量を備蓄しています。
また、目黒区では、自宅が無事な場合には、住み慣れた自宅で避難生活を続ける「在宅避難」を推奨しています。一方で、自宅に危険がある場合や不安を感じる場合には、迷わず避難所へ避難してください。





地震発生から避難所開設までの流れ

1 避難所運営協議会などが避難所に参集し受付テントを設営。



2 建物の安全性を確認し、避難所を開設



3 避難者の住所・氏名などを確認し、避難者を受け入れる



4 大人２～３人で屋内テントを組み立て



5 工具を使わずに組み立てられ1張約10分以内で完成



6 今回の訓練では約1時間ほどで40張程度設営完了



INTERVIEW
今回一緒に訓練を行った**八雲住区エリア避難所運営協議会**のかたにお話を聞きました。


薄葉さん（本部長）

Q1 避難所運営協議会とは？

矢野 この地域に住む皆様が避難する避難所の仕組みを作るための組織で、いつ地震があっても対応できるように日々訓練を行っています。

薄葉 八雲住区エリア避難所運営協議会には、避難所である八雲小学校と区民キャンパスそれぞれを担当する部会が、年2回の学習会や訓練を実施しています。

Q2 避難所生活の想像は出来ましたか？

松本 今回の訓練では、台湾の地震などで活用されたような屋内テントが目黒区で導入され、課題はありつつも、多くの人に安心感を与えられたと思います。

矢野 屋内テントの設置により避難所生活に対する安心感が生まれました。一方で、通路の確保など新たな課題が浮上し、それを解決していくところがスタートかなと思います。

Q3 今回の訓練で意識が変わった部分はありますか？

矢野 在宅避難について、以前から備蓄品の紹介や啓発活動を続けてきた結果、その考え方が徐々に定着してきました。在宅避難者の増加は避難所運営の負担軽減につながる可能性があり、避難所運営と在宅避難の両輪で訓練していきたいと思います。

Q4 避難者に持っておいて欲しい意識は？

矢野 災害時に備えて、自分が避難するかもしれない避難所を把握しておいてもらうことが最大の願いです。また、避難者と運営者を区別するのではなく、避難者はともに生活しながら協力し合う仲間だという考えが大切です。

松本 これまでの経験上、避難所はすぐ立ち上がるものではないので、自身で備蓄品等の備えをしておいて欲しいですね。


矢野さん（部会長）　松本さん（部会長）